

Title	講座充実期を迎えて
Author(s)	柏木, 哲夫
Citation	大阪大学臨床老年行動学年報. 2 P.1
Issue Date	1997
Text Version	publisher
URL	<a href="http://hdl.handle.net/11094/7997">http://hdl.handle.net/11094/7997</a>
DOI	
rights	

*Osaka University Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/repo/ouka/all/>

## 講座充実期を迎えて

柏木哲夫

ここ数年大学に改革の嵐が吹いている。教養部の廃止、大講座化、大学院重点化、編入制度、社会人大学院生の受け入れなどが次々と導入された。新しい制度の導入時は混乱と忙しさがつきまとう。学生も教師も大変だ。教師としては特にこの一年、書類の作成に随分時間をとられた。その分、卒論や修論の指導が十分できなかつた。この紙面を借りて、学生諸君にお詫びしたい。

学会関係では、1996年7月、日本緩和医療学会が発足し、理事長という重責を担うことになった。また8月には第22回日本心身医学会近畿地方会を主催し、スタッフや学生さんの協力で責任を果たすことができた。また、NHK教育テレビ「人間大学」で、「死を看取る医学」と題して12回連続出演をした。

今年度はその他、講演や執筆もかなり多かったせいか、年末に体調を崩し(肺炎)、2週間近く入院し、その後しばらく自宅療養の羽目になった。皆さんにはずいぶんご迷惑をかけてしまった。文字どおり寝正月であったが、元気になって大学に戻った時、教官の一人は“老人性の肺炎でしたか？”と言った。これには、いささか傷ついた。他の人は“お若いから回復が早いですね”と言った。ややお世辞が過ぎる感じがした。私は老人でもないし、若くもない。「中年の肺炎」をわずらったのだ。

学生諸君もスタッフも頑張っていて随分良い業績を残してくれた。その一部はこの年報に掲載されている。今年度は過去最高の9名の学部生が卒業した。修士課程を終了した3名は揃って博士課程に進学し、博士課程は4名になった。修士課程には新たに3名の入学が決まっております。修士は合計7名になる。大学院生が11名になると、指導する方も、されるほうも大変だ。幸い優秀な人達なので、それぞれにユニークな研究が進んでいる。学部生は4回生5人、3回生6人で、一人は編入生である。

スタッフの活動も活発で、山本一成助手はニューヨークで開かれた第3回国際サイコロジ学会で「日本における遺族の悲嘆」について発表し、好評を博した。山本恵子助手は課程博士学位論文、「「老いと死の教育」に向けての研究—“真に生きる力”の育成の試み—」を提出し、博士(人間科学)の学位を授与された。心からおめでとうと言いたい。

1997年4月からは講座開設後5年目になる。教育面でも研究面でも皆が協力して、より充実した一年としたい。特に人数が多くなった院生が互いに教えあうこと、学部学生の指導に重荷を持つことを期待したい。

1997年3月  
教授室にて